

令和6年度第3回国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和6年11月7日(木) 午前10時～正午
会 場 : 市役所第1庁舎 第1・2委員会室

○会議次第

1. 開会

2. 議事

(1) 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について

3. その他

(1) 今後の予定について

4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長、大野政智副会長、大友美輪委員、益子美賀委員、和田淳委員、
竹内大悟委員、六車貴美子委員、藤井恭子委員、田中貴浩委員 計9人

欠席委員 : 野澤淳史委員、荒井雄一委員、伊藤皓子委員 計3人

傍聴者 : 0人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課5人(部長、課長、係長、担当2人)

配布資料

資料1… 第三次国分寺市環境基本計画(国分寺市生物多様性地域戦略含む)(素案)

資料2… 策定スケジュール(予定)

参考資料1… 環境審議会からの次期環境基本計画のあり方に関する意見について

参考資料2… 令和6年度第1・2回環境審議会からの主な意見(概要)について

令和6年度第2回国分寺市環境審議会議事要約

1. 開会

- まちづくり計画課長あいさつ
まちづくり計画課長より会の成立を報告した。

2. 議事

- 配布資料の確認
事務局より配布資料の確認を行った。
- 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討状況について
(事務局より資料1を説明)

中西会長：計画が形になってきた。順番に議論をしていきたいと思う。まずは戦略2の生物多様性に関する部分で意見を伺いたい。

竹内委員：18頁の「生物多様性とは」の部分で、「①生態系の多様性」の定義に違和感がある。生態系の多様性は「様々な環境がある」ということとは意味合いが違うと思う。「生物の組合せ」や「つながり（関係性）の多様性」など環境が多様になれば必ずしも生態系の多様性が高いわけではないので、表現を変えた方が良い。また「昆明・モンリオール生物多様性枠組」の記載はあるが、環境省で進めている「30by30」の考え方が全体を通して入っていない。計画の目標年度は「30by30」に合わせて2030年となっていると思うが、そこに繋がっている旨を説明した方が良い。

中西会長：OECMや自然共生サイトが話題になっているため、入れた方が良い。大事な基本的情報となるので修正と補足をお願いしたい。87頁「施策2-3-2」の取組②に「緑と水の軸の形成に向けた東京都等との連携」とあるが、具体的に想定している取組はあるのか。

事務局：複数の市区町村にまたがって整備されている、都市計画道路の街路樹や都市計画河川の野川といった広域ネットワークでグリーンインフラを進めることを意識している。もう1つは、東京都生物多様性地域戦略の中で示されている国分寺崖線を軸にした緑の繋がりのことを意識して記載している。

中西会長：そういった説明があると良いと思う。

六車委員：7頁の下図では「戸建住宅」と「共同住宅」に分かれているが、一方、8頁では「宅地」と「共同住宅等」、「店舗・事務所」、「その他」に分かれている。文言の統一がされていると分かりやすいと感じた。

事務局：7頁はどのような建物が物の種類がどのくらいあるかをカウントしているものであり、8頁は宅地造成事業の説明になるので、区別して記載している。

中西会長：おそらく参考資料の表現をそのまま引用しているのだろう。修正ではなく、補足説明を記載するなどして欲しい。

事務局：修正をしたいと思う。

六車委員：13頁の上図では太陽光発電の導入量の増加傾向を示しているが、10kW未満の太陽光発電の割合が大きくなっているようだ。大規模なマンションなどではないということなので、どういう人が太陽光発電つきの住宅を建てているか情報が欲しい。

中西会長：10kW未満が多くなっているということは、戸建て住宅で太陽光発電を導入する人が増えているということであり、また下図で助成件数の増加が示されているように、市は助成金などでバックアップしていることが分かるように記載した方が良い。

事務局：10kW未満は戸建て住宅であることを補足したいと思う。

六車委員：35頁の吹き出しで①～③とあるが、上から見ていくと②と③が先に、①が右下にあって順番通りでなく分かりづらい。

事務局：国分寺崖線の緑が多く残っている市域の南側にあるためこの配置とした。見直したいと思う。

中西会長：テキストボックスから伸びている円形矢印が、矢印の先だけでなく同じ色が塗られている全体を指し示していることが分かりづらい。太い線で囲むなど工夫ができると思う。

竹内委員：88頁の図は、市民レベルで見やすいものを作成すべきだが、矢印や点線が分かりづらい。もう少しイラストのようなデザインにするなど、時間とお金をかけてブラッシュアップすべき。文字は一言一句見る人は少ないが、こういった図は頭に入りやすい。特に生物多様性は行政だけでなく市民レベルで動いてもらうことが重要なので、その点を意識したイメージ図があると良い。

中西会長：生物多様性に関する象徴的な図でとても大事だと思う。全体に文字が多く、説明がないため分かりづらい。将来イメージということは理解できるが、現状の整理と将来イメージのすみ分けが分かりづらいなと思う。

竹内委員：A3サイズにしたり、写真を挿入するなど、工夫をしても良いと思う。

大野副会長：薄緑色と濃い緑で使い分けしているようだが、違いが分からない。方針や説明がないので、街路樹もどうしたいのか分からない。

中西会長：街路樹と分けて骨格的な緑の軸とあるが、これは国分寺崖線のことか。

大友委員：緑の拠点と拠点をつなぐネットワークとはどういう意味か。

事務局：生きものは公園の緑や緑地を移動していくため、そのネットワークを大切にしていこうという考え方で、新しい公園ができた際に新たに緑を作ることによって、生きものが一旦休んだり餌をとったりというような拠点になる。緑と緑を結ぶ生きものの通り道として考えている。それから、小さなレベルになるが、ご自宅にプランターを設置していただくと、生きものが活動できる拠点がが増えていってネットワークが形成される概念のことである。

中西会長：なるべく拠点と拠点を繋ぐ緑を増やしていくということで理解した。

六車委員：表現としてはコリドー（回廊）を使っている自治体もあるので、表現は考えてみても良いのではないか。

事務局：図の内容を再検討する。

六車委員：32、33頁にホンセイインコとあるが、29頁はワカケホンセイインコとある。また全体を通して外来種と外来生物が混在して記載されているので、単語は統一してほしい。

中西会長：32頁のセイタカアワダチソウの「ウ」が抜けている。パブリック・コメントまでに再度チェックをしてほしい。33頁⑤姿見の池緑地のキンヒバリとは何か。

事務局：バッタ目ヒバリモドキ科の昆虫とのことである。

六車委員：33頁⑦の課題の部分で、「抜き取りが望ましい状況です。」とあるが、「～望ましい。」とするなど、市の作成する基本計画なら第三者のような書き方は修正した方が良い。

- 中西会長：指摘箇所については特に問題は無いように思う。「影響を与えています。」といった書き方の方が良いかと思う。対策については、課題の次の段階だと思う。32、33 頁は動植物調査報告書をそのまま持ってきているように見えるので、精査が必要である。
- 六車委員：在来種を残したという気持ちは伝わるが、バランスが悪いと感じた。
- 中西会長：特徴や保全の課題とあるが、現状を書いているようだが、どんな外来種が出たかまで書くべきか疑問に思う。書く必要があることだけにシンプルにして良いと思う。
- 竹内委員：「抜き取りが望ましい状況です。」と書いてあっても違和感はない。保全についてもっと言及した方が良い。
- 中西会長：薪炭林などの緑地なのか概略を書いた上で、主要な生きものや外来種をまとめられないか。調査地点の特徴は少し書いてもいいのでは。
- 竹内委員：冠として場所の特徴の説明もあっても良いと思うが、あまり特徴に差が無い調査地点もあると思うので、難しいのではと思う。おそらくほとんどのベースは平地林で、そこから人の使い方で竹が入ってきていたりとか、常緑樹が入ってきていたりという変化をしている。そのため変化を一言で平易に言い表すのは難しいのかもしれない。もう少し、市民のふれあいの形など専門的でない表現が上であって、下は詳しい説明の方が良いかと思う。平兵衛樹林地をこの前歩いたが、鬱蒼とした感じがあったり、人との距離感が全然違ってその辺りを書くの良い。
- 六車委員：調査地の中で維持管理に携わっているボランティア団体はあるのか。
- 事務局：全部ではないがボランティア団体に協力いただいている。
- 中西会長：整備の手が入っているかどうかは差別化や特徴になる。
- 六車委員：それからどういう目的で整備していきたいかを入れると良いと思う。例えば神代植物公園には手を入れない囲われた場所もある。団体活動も書いて良いのではないか。つくりたい緑地のイメージも書いても良いと思う。
- 中西会長：そのようなコンセプトがあれば記載いただくと良いが、あまりないと思う。緑地のうち閉鎖管理を行っているところはあるか。
- 事務局：東京都の緑地保全地域は閉鎖管理されている。市内では西町四丁目緑地では小学校の環境学習を行ったりしているようで、完全な閉鎖管理はない。
- 六車委員：そこは小学校の環境学習でしか利用していないのか。
- 事務局：基本的に斜面地で人が入りにくい、アクセスしづらくなっている。
- 六車委員：それも特徴なので記載されても良いと思う。
- 事務局：その辺りの利用の形は記載したいと思う。

(10分休憩)

- 中西会長：59 頁からの現行計画の総括と、新たな基本計画に向けた取組の方向性も新たに変わったところとなっている。質問等が無いようであれば、67 頁以降の「目指す環境像 2050」の意見を伺いたい。
- 竹内委員：67 頁の環境像は文言を盛りすぎで理想が見えてこない。もっとデフォルメして想像の余地があるものが良い。例えば、「歴史」とか「水」は国分寺市の特徴だと思う。国分寺市だけにあるものを書いて、「自然の共生」や「一人ひとりが考える」、「楽しみながら行動」

など、やって当たり前のことや近隣市と同じことは省いても良いと思う。「水と歴史のまち国分寺」のような、もう少しキャッチーなものに落とし込んでほしい。

中西会長：詰め込んでいるように感じる。国分寺市ならではの文言にしてほしい。これから30年以上先の国分寺市がどうなっていてほしいと思うか。

和田委員：4つの基本戦略のリード文と環境像がリンクしていた方が良い。環境像の前に説明があって、その後にキーフレーズとして環境像2050があれば分かりやすいのではないかと。

中西会長：今の環境像が説明文で、環境像は1行でまとめるくらいの長さがちょうどいいと思う。大友委員や益子委員たち市民目線で何か国分寺市の特徴としては思い浮かぶものは何か。

大友委員：すぐに思い浮かぶのは国分寺崖線と湧水である。国分寺の史跡は土台が残っているくらいなので、それよりは崖線が良いと思う。

益子委員：2050ならゼロカーボンシティが実現している前提になる。水と緑があって、子どもが外遊べるような環境になっていることを想像した上で、キャッチーな言葉があればいいかと思う。

和田委員：東京都の中で国分寺という言葉に続く単語は崖線が有名で、崖線は市の象徴的な存在だと思う。しかし、あまり市民に知られていないので、一般向けではないかもしれない。崖線という言葉は、緑と水と農業、市民団体なども含まれる素晴らしい言葉ではあるが、知名度が低いと思う。

中西会長：国分寺崖線のことを書いて知名度を上げていいと思う。

大野副会長：国分寺崖線や湧水が良く思い浮かぶが、台地の元々の雑木林や屋敷林も含めて国分寺の緑なので、それがあっての緑のネットワークだと思う。先ほどの地図を見ても、全部農地になっているが、屋敷林や雑木林もあってさらに崖線下の緑もあるので、包含した総合的な形の表現をしてもらえると国分寺の特徴となるのではないかと。

和田委員：21ページの図が分かりやすいが、JR線の北側にも崖線が存在することを知らない人が多い。

竹内委員：崖という言葉のイメージを理想像と結び付けていくのは難しいかもしれない。小平市では新田開発や用水を基本計画に落とし込んでいる。用水は実は理想的な言葉として使いづらい、用水があるまちと言われてもあまり魅力的に感じない。用水路に危ないイメージもある。

中西会長：計画の前段で国分寺市の特徴が書いてある先にこの表現があるので、崖線も国分寺市では危ないというよりは歴史を抱えていて、水と緑の軸を形成しているようなポジティブなイメージはあるように感じる。素案では崖線という言葉を使っているか。

事務局：崖線や斜面地としている。

中西会長：多摩地域に住んでいる人たちは崖線に悪いイメージを持っていないと思う。日野市にも崖線や用水路があるが、生物多様性地域戦略の中でいいものとして残そうというポジティブな意味で使っている。

六車委員：湧水がきれいなイメージがあるので、湧水について書いてもいいと思う。

中西会長：1、2行に納まるくらいが良いと思う。環境像はコンパクトにして、説明の中に思いを書いてもらえればと思う。続いて施策の部分の意見を伺いたい。

竹内委員：目標がものによって現実的すぎるものになっており、例えば96ページの「環境の保全活動を行う市民団体の会員数」が6年間で14人しか伸びないというのは、取組の推進意識を持てるのか疑問に感じた。95ページの「環境に関する学びや体験の場への参加人数」も129人

増加となっていて、推進しているというより自然増加に近いイメージである。一方で、計画期間が6年しかないので確かにそうなるかという気もする。

六車委員：91 頁の指標「不法投棄処理件数」の目標を0件としているが、仕事が無いように見える。

竹内委員：不法投棄が無くなっている状態を目指したいということかと思う。

六車委員：言っていることは分かるが、何もしなくてもいいのかなと感じた。

竹内委員：数値の根拠があると良いと思う。

和田委員：今後6年実行する中で、例えば過去5年間で3～4件増えましたということではなく、3～4件が想定されるので、施策によってそれを倍にしますというような方向性をここに書くべきではないかと思う。

竹内委員：経年度比のデータはないか。変化率が施策によって変化していれば意味があるし、目標の意図が分かると思う。

中西会長：トレンドを見るのであれば、和田委員の指摘したように2倍にするというようなことを書くべきかと思う。

和田委員：96 頁を例にとると、目標を1,000人とするならば最低でも1,000人以上と記載しましょう。1,000人は最低限のボーダーであってそれ以上にしようというニュアンスを市には持ってほしい。

事務局：色々な自治体を参考にしていて、ボーダーの数字だけを出すところと、それ以上を目指すというところがあり、国分寺市ではボーダーを目指すという方針にしている。また、現実的すぎる目標数値については、現状低調なものをここまで増やしたいという考え方である。頑張りたい気持ちはあるものの、実現可能な数値にしたということを理解していただきたい。不法投棄0件について、指導だけでは難しいところもあるが、意識の問題なので常に目指さなければいけない数字になっている。

中西会長：不法投棄0件について異論はないと思う。

大友委員：83 頁「自然とのふれあい体験・学習への参加人数」を2030年度までに109人から150人以上/年に増やすという目標が少ないと感じた。65 頁の次世代アンケート調査の結果では、約9割が環境学習・環境活動への参加意向があると書いてあるのに、この人数というのは少ないと思う。例えば難しいかもしれないが、小学校などに働きかけてクラス単位で参加をしてもらおうなど、3～4クラス分くらいかと思うのでまとめて参加してもらおうような方法はないのか。94 頁の「環境学習に関する情報提供の充実」の2030年度目標についても、プッシュ型の情報提供の形が作れると興味を持ってもらえると思った。

事務局：プッシュ型の通知は現状できていないが、将来的にやりたいという考えは入れている。しかし、指標化は難しいため、プッシュ型の通知等によりホームページのアクセス数が増えたという考え方で現在の指標を設定している。

大友委員：学校に働きかけてクラス単位で参加してもらおうというのは難しいのか。

事務局：次世代アンケートの結果によると、環境学習の経験は約半数が学校でしたことがあるという結果となっている。そのため、学校での学習を充実するという方向性も1つあるが、そうではない経験の場を作っていくことが重要ではないかと考えている。クラス単位での参加は、学校で経験した人数が増えるなど聞いていて感じた。また、目標人数の増加幅が少ないという指摘については、今までの経験から体験型イベントは、人数が多いと主催者側の目が届かないという安全管理の問題がある。このため、1回につき20人、親

子だったら 30 人くらいを想定して積み上げた結果 150 人にしている。人材を増やすなどやり方を変えることも検討する必要がある。

六車委員：そのような企画をやるときは市が実施するのか。それとも予算を付けて市民団体へ委託をするのか。

事務局：現在、この計画の中で委託に出す等の方針は決められないため、当面は市の事業で行い、専門の先生にお願いする想定である。現状では参加人数を増やす仕組みを作っていくましようという段階にある。

中西会長：96 頁にあるように、例えば環境アドバイザーや市民団体にやっていただくということではないか。実際、どこの市町村も市が自前というのは難しいため、市民団体と協働するだとかアドバイザー制度をうまく活用していると思う。現状は協働事業で行うケースはあるのか。

事務局：他部署では提案型の協働事業や公募型の協働事業等も行っているので、ゆくゆくはそういったことも視野に検討したい。

藤井委員：83 頁の「自然とのふれあい体験・学習への参加人数」の増加分は、95 頁の「環境に関する学びや体験の場への新規参加人数」に含まれるかと思う。人数が妥当かは分からないが、環境の中には自然の学びやエネルギーなど様々なことが含まれていて、特に 95 頁は次世代に向けての指標なので、83 頁も含めて目標数が増やせるのではないかと市としても考えている。「施策 0-2-1」取組①には「小中学校における環境学習の支援」と具体的に書いているので、3 クラス分ぐらい増やすのか、もう 3 校ぐらいにやってもらえるようにすると 2030 年度までに 300 人ぐらいになるかなと思う。100 人という数字がどういう考えなのか聞きたいと思った。また、小中学校でも国分寺学を総合的な学習の時間に学んでいると伺ったので、教育分野との連携についても書けるといいかと思った。

大野副会長：83 頁について 150 人をどのように抽出したかは分からないが、第四小学校や第五小学校の総合的な学習で「姿見の池を案内してください」という依頼もあったため、まったくやっていないわけではない。学校の総合学習の情報がまちづくり計画課の情報とリンクしていない気がしている。

事務局：95 頁の参加人数は、自然もエネルギーも廃棄物も環境分野を全て合算した数字で、市の事業として実施しているものを計上しており、学校や環境団体が実施しているものは含まれていない。その下の新規参加人数は、年間 100 人程度は新規参加者を増やしていきたいという数字である。83 頁は、このうちの特に自然とのふれあいや学習など、フィールドで行っているものを 109 人から増やしていくというものである。

中西会長：いずれも国分寺市の授業で取り込まれるものということで理解した。事業者や学校で実施している数値とは違う旨が分かるようにした方が良い。それにしても環境全体で約 3,000 人に対して自然環境が 109 人というのは少ないと感じる。構えないで生物多様性を理解できる機会が身近にあったらいいなという意見には、私もその通りだと思う。子どもたちが生物や自然に接する機会がとても減っているので、まずその機会を作ることが必要なのではないか。勉強の要素というよりも遊びの要素の中で学ぶような、そのため、子どもたち同士で遊びに行ける場所を作ってあげることも大事なのではないかと個人的には思う。他に意見はあるか。

六車委員：65 頁「環境学習・行動変容」の中で「学童体験農園数減少。仕組自体の見直しが必要。」

と書いてあるが、これはどこかに反映されているのか。

事務局：そもそも仕組み自体を継続するのは難しいという問題がある。農地の一部を貸し出せないという農家さんが多く、協力いただける農家がなかなか出てこないという理由がある。小学校からの移動時間の関係で近隣の農地にする必要があるが、そうした農地が減っており、ご協力いただける農家さんがいないという状況になっていると聞いたことがある。今考えているのは、95頁の施策0-2-1②の中で収穫体験を中心に展開していきたいと考えている。

六車委員：杉並区では片道20分程度かけて移動して実施していることもある。種まきから行う機会はそうないので、収穫体験だけでなくできれば良いと思う。

中西会長：相手がある事なので中々難しいと思う。最近では学校の中でビオトープを作って稲を育てるということもあるようだ。

六車委員：せっかく「こくベジ」という有名なものがあるのに、「こくベジ」のお店数を増やすという事は目標にはないのか。

事務局：取組としては77頁施策1-4-2「地場産農畜産物を生かした食の普及」に記載があり、76頁に目標を設定している。

六車委員：「こくベジ」という単語が出てこないのは寂しいと思う。

和田委員：「こくベジ」という単語は、1つのキャンペーンにおけるブランディング名称で、市が推奨することは農協との関係もあるので違うと思う。市内の農作物の振興は別計画で行っていることで、環境とは別物なのでこの計画に入れる必要はないと思う。

事務局：表現については、こくベジとして売っている農家の方と、そうでない農家の方がいらっしゃるので、担当課とも調整してここでは「地場産農畜産物」という表現に統一した。

中西会長：地産地消の中に組み込んでいるなら問題ないと思う。59頁には「こくベジ」という単語がでてくるが、かつての重点プロジェクトの振り返りになっているので問題はない。

事務局：コラムの中でPRするやり方もあると思う。戦略1は今年の3月に策定した計画の内容のため、ここに「こくベジ」という表現を新たに加えることはできないとご理解いただきたい。記載の工夫は検討させてもらいたい。

3. その他

(1) 今後の予定

(事務局より資料2を説明)

中西会長：今後のスケジュールによるが、パブリック・コメントまでに期間があれば皆さんの追加意見を取れるか。

事務局：パブリック・コメントの実施については2024年12月16日(月)から2025年1月15日(水)の予定している。次回の審議会は2025年1月28日(火)に新庁舎にて行う予定となっている(資料2の説明)。庁内の推進本部や検討部会のスケジュールの関係もあるため、追加のご意見がある場合は、11月12日(火)までに、事務局へ送付をお願いしたい。

中西会長：1月の審議会ではパブリック・コメントの意見を反映した計画について議論するのか。

事務局：1月15日までパブリック・コメントを募集するため、反映までの内容の提示は難しいと

思う。提出された意見は、カテゴリー分けしてお示ししたいと思う。実施計画について、検討状況についてご報告したいと思う。

藤井委員：答申はいつか。

事務局：2月19日（水）の審議会にて、答申をいただく予定としている。

3. その他

●事務連絡

事務局：本日の議事要約について、後日皆様に確認していただくので、よろしく願います。
なお、次回第4回の開催は令和7年1月28日（火）を予定している。また、日程が近くなったら正式に開催通知を送付する。

4. 閉会

中西会長：令和6年第3回国分寺市環境審議会を閉会する。